

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013年3月7日

No.13

会社：わが社を取り巻く状況は厳しく、ベアは実施出来る状況ではない
組合：ベースアップの抑制は絶対に許さない！経営陣は覚悟を見せろ！

～13春闘 第4回交渉報告～

中央本部は、本日10時から「13春闘第4回賃上げ交渉」を行いました。本日の賃上げ交渉で会社は、前回の組合の要求の根拠に対する考え方を明らかにしました。会社の考え方は以下の通りです。

- ①収入動向は、2月は雪害などの輸送障害が響き、対計画△3.9億円（95.9%）となった。3月に入っても6日までの実績で対計画△1億円（96.3%）である。今年度の落ち着いた見込みは、大きな輸送障害がなければ黒字になる見込みである。最後まで収入確保に全力を挙げる。
- ②H25年度の事業計画も黒字の計画としている。収入面ではコンテナは増収となるが、車扱いは減収を見込んでいる。一方線路使用料・動力費・修繕費などの経費が増加する。関連事業部門もテナント賃料見直しやマンション建設などの経費増が発生するために厳しい状況である。
- ③国内総物流量は震災後の需要が落ち着き、25年度は減少を見込まれている中、収入拡大は難しい。
- ④以上の状況から、i 定期昇給については実施するが、ベースアップの実施は出来る状況にない。ii 55歳以上の賃金改善は昨年と同様とする。iii 諸要求については別途議論としたい。

中央本部は、会社の無責任な考え方を断じて許さず、以下の点について糾しました。

- ①24年度も黒字決算を予定し、25年度も黒字で計画している。その中で会社は厳しいと言うが、その中身が分からない。この間の賃金抑制により我々の生活の方がもっと厳しい。これまでの苦勞に対して、ベースアップ実施で報いること。
- ②収入未達の原因を外部要因に転嫁していないか。問題の本質である輸送障害の対応は発生主義であり、収入減少にも影響している。経営陣がこのことを死活問題として認識し、どのように収入減に歯止めをかけたのか具体的に明らかにすること。
- ③収入拡大施策を示さず、ただ経費削減にまい進する経営陣には「稼ぐ」ための必死さが全く感じられない。営業部門はもちろん全ての部署が同じ方向を向き、全社を挙げて収入拡大に取り組むこと。
- ④ダイヤ改正の効果を上げるのは組合員である。来年度も黒字計画である以上、組合員に還元出来る能力はある。初めから経費削減の考えを前面に出す会社の考え方について我々は認めない。社内で再検討し、回答指定日までに誠意ある回答を示すこと。

最後に会社に対し改めて、今春闘において人件費に踏み込む趣旨の発言に対し、組合として断じて認めることは出来ない。ことを突き付け、交渉を終えました。

組合員のみなさん！会社は計画未達の責任を何一つ取ることなく、この苦しい状況を経費削減、すなわち私たちの賃金を抑制することで乗り切ろうとしています。

職場の組合員は相次ぐ輸送障害の中、鉄道貨物輸送を守るために必死の努力で乗り切ってきました。今こそ私たちの苦勞に対し、ベースアップで報いるべきです。職場の切実な声を聞かない会社経営陣の姿勢に対し「3・13全国統一行動」を成功させ、組合員の総団結を持ってベアゼロの壁を突破しようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを改めて決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は3月15日（金）です。